

卓越大学院プログラム
令和元平成30年度採択プログラム中間評価
学生アンケート調査（案）

- この調査は卓越大学院プログラム（注）の令和元平成30年度採択プログラムの中間評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムに参加する皆さん（大学により各プログラムに選抜された学生）にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。

注 <卓越大学院プログラムとは>

「卓越大学院プログラム(WISE Program : Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)」(以下「本事業」という。)は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業です。

本事業により、これまで行われてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの育成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが期待されています。

参加されているプログラムと、御自身についてうかがいます

I. 回答者の属性

問1 大学・プログラム名・公募の領域

問2 年齢、性別

問3 プログラムとの関係

プログラムに参加した年	1. 201 98 (令和 元 平成 30) 年度	2. 2020 19 (令和 2 元) 年度	3. 202 10 (令和 3 2) 年度	4. 2022 1 (令和 4 3) 年度	
現在の学年	1. 大学院1年次 (M1)	2. 大学院2年次 (M2)	3. 大学院3年次 (D1)	4. 大学院4年次 (D2)	5. 大学院5年次 (D3)
	6. 大学院6年次以上	7. 医歯薬学又は獣医学系1年次	8. 医歯薬学又は獣医学系2年次	9. 医歯薬学又は獣医学系3年次	10. 医歯薬学又は獣医学系4年次以上
入学時からこのプログラムに参加したか	1. 大学院入学と同時に参加	2. 大学院入学後1年以内に参加	3. 大学院入学後2年目以降に参加		
学位論文の執筆を予定している分野	1. 総合系 (情報学、環境学、複合領域)	2. 人文社会系 (総合人文社会、人文学、社会科学)	3. 理工系 (総合理工、数物系科学、化学、工学)	4. 生物系 (総合生物、生物学、農学・獣医学、医歯薬系)	5. ほか ↓

具体的に書いてください

問4 経歴についてあてはまるものすべてにチェックしてください。

1	同じ大学を卒業	5	社会人を経験
2	留学生	6	現在も在職中
3	他の大学の学部を卒業	7	在職中だが、休職中
4	他の大学院を経験、卒業		

問5 指導教員(専門分野における研究指導を主に行う教員1名)と、プログラムとの関係 (あてはまるものに○)

1	指導教員がいる — その指導教員がプログラムにも所属
---	----------------------------

2	指導教員がいる – その指導教員はプログラムには所属していない
3	それ以外



具体的に書いてください

II. 事業趣旨の理解

問6 本事業の目的（1 ページ「卓越大学院プログラムとは」を参照）に沿って、大学はプログラムを実施していますが、本事業の趣旨を知っていましたか。

1	知っていた
2	知らなかった

上記を選択した理由などについて自由に記述してください。

Ⅲ. プログラムへの参加動機

問7-1 あなたがこのプログラムに参加した動機として、あてはまるもの全てにチェックしてください。また、その中で最も直接的な動機に近いもの1つに○をしてください。

	当てはまるもの 全てにチェック	最も近いもの1 つに○
プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている		
大学や研究機関、民間企業、公的機関への就職など自分の将来の可能性が広がる		
通常の博士課程では得られない、幅広い知識や経験が得られる		
通常の博士課程では得られない、独創力を培うことができる		
通常の博士課程では得られない、高度な専門性が得られる		
他の研究科（専攻）の学生や教員、留学生など、交流の幅が広がる		
留学や海外インターンシップなど、海外での経験が積める		
グローバルな舞台で活躍していくために、Ph.D.が必要		
経済的な支援が充実している		
友人・知人や研究室の先輩など、教員以外の人にプログラムを勧められた		
指導教員などの教員に勧められた（自分の意志で参加）		
指導教員などの教員に勧められた（断ることができなかった）		
何となく面白そうだった		

その他の理由がある場合や、上記を選択した理由などについて自由に記述してください。

IV. プログラムがなかった場合の経歴

問7-2 このプログラムがなかった場合、あなたの最終学位としてどれを選択していましたか。

1	学士（今所属する大学と同じ）	5	修士（他大学）
2	学士（他大学）	6	博士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）
3	修士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）	7	博士（今所属する大学の別の研究科または専攻等）
4	修士（今所属する大学の別の研究科または専攻等）	8	博士（他大学）

V. プログラムの内容に対する評価

問8 プログラムの以下のような点をどのように評価されますか。

	非常に良い	良い	どちらとも言えない	良いとは言えない	機会がなかった
他の専門分野の学生との交流	1	2	3	4	5
他大学の学生との交流	1	2	3	4	5
専門分野以外の教員との出会い	1	2	3	4	5
企業人との交流	1	2	3	4	5
専門分野以外の幅広い知識や経験	1	2	3	4	5
自身の専門分野をより深く学ぶ機会	1	2	3	4	5
奨励金などの経済的支援	1	2	3	4	5
議論することに対する自信をつけること	1	2	3	4	5
アカデミアの分野で活躍することについての自信をつけること	1	2	3	4	5
アカデミア以外の分野で活躍することについての自信をつけること	1	2	3	4	5
インターンシップの機会	1	2	3	4	5
留学の機会	1	2	3	4	5

問9 問8の項目以外にプログラムの評価できる点、できない点を自由に記述してください。

プログラムでの実施状況について感想をうかがいます

VI. プログラムで受けた指導とその有効性

問10 このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前後のそれぞれについて回答してください。

※2020（令和2）年度以降に入学した学生は「コロナ禍前」に関する質問には回答不要です。

< 人的な指導 >

		どの程度の頻度で受けたか							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
副指導教員など指導教員以外の教員からの指導	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				

上記の理由を記入してください（研究面、生活面、修了後の進路面 など）

		どの程度の頻度で受けたか							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
企業、政府機関など学外者からの指導、助言	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				

上記の理由を記入してください（研究面、生活面、修了後の進路面 など）

		どの程度の頻度で受けたか							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
メンター等による授業外のサポート	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				

上記の理由を記入してください（研究面、生活面、修了後の進路面 など）



<機会の提供>

		どの程度の頻度で受けたか ※							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
産学共同研究 の場への参画	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				
主専攻以外の 分野の授業等 の履修	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				
研究室ローテーション ※ 名称は問わない（他研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。）	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				
プロジェクト 形式による授業や課題	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				
キャリアパス 具体化のための 情報提供 例：産学共同研究、 産業界等の講師を 招いたセミナー 等	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				

※「研究室ローテーション」については、実施した期間について、「1. 1年のうち1週間程度」「2. 1年のうち2週間程度」「3. 1年のうち1ヶ月程度」「4. 1年のうち2ヶ月程度」「5. 1年のうち3ヶ月程度」「6. 1年のうち半年程度」「7. 受けていない」から選択

上の理由や特に有効又は有効でないと思ったことがあれば自由に記述してください。

--

新型コロナウイルス感染症の影響により、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われた指導等があれば、その内容を記述してください。

--

VII. 修学環境の整備とその有効性

問11A. このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック)

	整備されている			有効か			
	十分に されている	ある程度 されている	不十分	有効	ある程度 有効	あまり有 効ではな い	有効では ない
奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援	1	2	3	1	2	3	4
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生が交流するスペース、合同のセミナー等	1	2	3	1	2	3	4
外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会	1	2	3	1	2	3	4
学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会	1	2	3	1	2	3	4
QE(Qualifying Examination)などによる審査の機会	1	2	3	1	2	3	4
英語による授業、指導、QE等の機会	1	2	3	1	2	3	4

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

VIII. プログラムでの経験とその有効性

問11B. このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、また経験した場合それは有効でしたか。(※プログラムのカリキュラムに以下の制度・取組がない場合は「修了まで参加の予定はない」をチェックしてください。)

	経験したか			有効か（「参加した」を選択した場合のみ回答してください）			
	参加した	これから 参加	修了まで 参加の予 定はない	有効	ある程度 有効	あまり有 効ではな い	有効では ない
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	1	2	3	1	2	3	4
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）	1	2	3	1	2	3	4

国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ※1	1	2	3	1	2	3	4
※1 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。							
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	1	2	3	1	2	3	4
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）	1	2	3	1	2	3	4
本プログラムの中での留学（3ヶ月未満）	1	2	3	1	2	3	4
本プログラムの中での留学（3ヶ月以上1年未満）	1	3	3	1	2	3	4
本プログラムの中での留学（1年以上）	1	3	3	1	2	3	4
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動 ※2	1	2	3	1	2	3	4
※2 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。							

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

インターンシップや留学等について、新型コロナウイルスの感染症の影響があれば記述してください。また、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われたことがあれば、その内容を記述してください。

XI. プログラムの効果・負担等

問14 以下のような点について、どう考えていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである）	1	2	3	4
所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている（二重の負担になっていない）	1	2	3	4
所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えている	1	2	3	4
修了後の進路に不安がない	1	2	3	4

問16 プログラムへの参加によって、あなたの人生観、職業観、世界観、国際意識などがどのように変わったかを自由に記入してください。

--

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 （ はい ・ いいえ ）

問17 大学や研究機関、民間企業、公的研究機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材となるために、所属するプログラムにおいてあなたが主体的に行った活動、及びその成果について自由に記入してください。

--

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 （ はい ・ いいえ ）

全般的なご意見をうかがいます

問18 あなたが参加するプログラムについて、あなたの将来に向けてこのプログラムがどう役立っているか、又はどのように改善してほしいかも含め、感想、ご意見を自由に記入してください。(下記①～③のうち1つでも構いません。)

①<プログラムが役立っている点・良い点>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 (はい ・ いいえ)

②<改善して欲しい点>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 (はい ・ いいえ)

③<その他>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 (はい ・ いいえ)

(参考情報) よろしければご協力ください

問19 あなたはこのプログラムをどのようにして知りましたか (任意回答・あてはまるもの全てに○)

1	参加プログラムのホームページ	8	プログラム担当者の教員
2	文部科学省のホームページ	9	プログラム担当者以外の教員
3	日本学術振興会のホームページ	10	学内の友人・知人
4	参加プログラムのリーフレット等	11	学外の友人・知人
5	大学で行われた説明会・シンポジウム等	12	Facebook 等の SNS
6	大学以外の場所で行われた説明会・シンポジウム等	13	その他 (具体的に :)
7	新聞、雑誌等の公告		

調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。